OUHS
OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES
ジャーナル

大体大

Contents　Vol.224
2021.10.8

01 巻頭特集
1 東京オリ・パラに最多12名
2 大体大PEOPLE
西本 祥子・神戸市立須磨翔風高等学校 教頭

07 NEWS
1 原田学長、奔る
2 グッドコーチ養成セミナー開講
3 「武道ツーリズム」受託
4 インカレ　2部が全国V
硬式野球部女子　初／なぎなた4連覇
5 金子名誉教授　短歌集刊行
6 JR車内にポスター

11 EVENT
1 入学式　2年ぶり開催
2 子どもの体力向上推進プロジェクト
3 教育後援会　役員会開催
4 大阪体育大学 資金収支計算書・予算書
5 オープンキャンパスを開催
6 学友会新役員

13 コラム「窓」
14 コラム「ボーシャー」

大阪体育大学
OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES

東京オリ・パラに最多12名

本学から選手・コーチ

今年、７月から９月にかけて開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会。大阪体育大学から在学生・卒業生合わせて選手10名、教職員のスタッフ２名の計12名が参加した。オリンピック・パラリンピックの長い歴史で本学関係者が選手として出場したのは17人だけで、前回の2016年リオデジャネイロ大会、前々回の12年ロンドン大会は２選手ずつ。また、パラリンピックの開会式では教育学部１年の内田峻介さんが聖火に点火する大役を務め、東京2020は本学にとって画期的な大会となった。

ハンド男女 卒業生7名

ハンドボールでは、女子は本学の卒業生６名が日本代表「おりひめジャパン」に選出された。田邉夕貴、角南唯、大山真奈、佐々木春乃、角南果帆、近藤万春の各選手で、日本の五輪出場は１９７６年モントリオール五輪以来11大会ぶりとなった。

本学のハンドボール部女子はインカレで前人未到の７連覇を達成するなど日本のハンドボール界をけん引しており、おりひめジャパンの内定14選手中、本学の卒業生は４割以上を占めた。

一方、男子は、成田幸平選手が日本代表に選出された。男子も日本の五輪出場は１９８８年ソウル五輪以来８大会ぶりだった。

７月５日には五輪内定選手の壮行会がオンラインで開催され、ハンドボールの代表男女７選手が参加した。選手一人一人が決意を述べ、田邉夕貴選手は「これだけ多くの大体大出身選手が代表に選出されたのはOGとして大変光栄。東京大会を通じて少しでも多くの人にハンドボールに興味を持ってもらうような試合をすることが私たちの務め」とあいさつ。野田賢治理事長、原田宗彦学長から励ましの言葉があり、ハンドボール部の楠本繁生女子監督、下川真良男子監督、男女主将からメッセージが送られた。会の模様は当日夕、テレビ大阪でも紹介された。

オンラインで開催された五輪壮行会

五輪では、男女とも欧州勢などの強豪に阻まれ、女子は１勝４敗で予選リーグで敗退した。それでもモンテネグロを29―26で降し、45年ぶりとなる歴史的な１勝を挙げた。男子もポルトガルを31―30で降し、33年ぶりの勝利を挙げたが、１勝４敗で予選リーグ敗退となった。

五輪後は、女子の田邉、佐々木、大山選手が欧州のプロチームに移籍するなど、２０２４年パリ大会に向けて新たな一歩を踏み出している。

９月にはOG６名が背中にサインしたユニホームが本学に寄贈された。楠本監督を通じてユニホームを受け取った野田理事長は「６選手の五輪出場は、インカレで前人未到の７連覇を達成した楠本監督の指導の延長線上にある。ぜひ、次回のパリ大会でも出場を目指してほしい」と語った。

寄贈されたハンドボール女子のユニホーム

東京オリンピック・パラリンピック 大阪体育大学からの代表選手・スタッフです

男子サッカー オリンピック
林 大地 【体育学部 55期生】

男子ハンドボール オリンピック
成田 幸平 【体育学部 47期生】

女子ハンドボール オリンピック
田邉 夕貴 【体育学部 47期生】
大山 真奈 【体育学部 50期生】
佐々木春乃 【体育学部 52期生】
角南 唯 【体育学部 49期生】
角南 果帆 【体育学部 50期生】
近藤 万春 【体育学部 53期生】

男子柔道・コーチ オリンピック
生田 秀和 【体育学部 准教授】

女子競泳 パラリンピック
宇津木美都 【教育学部 1年】

男子陸上 パラリンピック
山本 篤 【体育学部 40期生・客員准教授】

ボッチャ・コーチ パラリンピック
曽根 裕二 【教育学部 准教授】

サッカーは林が獅子奮迅

一方、サッカーでは、サガン鳥栖のFW・林大地が代表に選ばれた。

当初のメンバー発表では、18名の出場メンバーから外れてバックアップメンバーに回ったが、その後、東京大会だけの特例として、バックアップメンバー無しの22名を正式メンバーとして登録できることになった。

林は日を追うごとに存在感を増し、予選リーグと準々決勝、準決勝、3位決定戦の6試合中5試合で先発。メダルは後一歩で逃したが、準決勝進出に大きく貢献した。

林がファンの注目を集めたのは、闘志をむき出しに泥臭く体を張って、ひたすらに献身的にボールを追う姿勢。様々なメディアのインタビューで、「大阪体育大学時代に身体の仕組みや動きを一から学んだことが人生の転機になった」と話し、大学での経験がプロ選手として生きているようだ。

林は五輪後、ベルギーリーグのシントトロイデンVVに移籍。新天地でさらなる飛躍を目指している。

本学からの出場選手・スタッフを紹介する横断幕が熊取駅にも掲示された

生田准教授が柔道コーチ

金ラッシュに貢献

柔道部男子監督の生田秀和准教授が東京オリンピックで日本代表男子のコーチを務め、男子で史上最多の金メダル5個を獲得した日本の躍進に貢献した。

生田監督は神奈川・桐蔭学園高、筑波大、ALSOKで選手、コーチを務め、2019年本学の准教授となり、柔道部男子を指導している。

東京五輪期間中はナショナルトレーニングセンターに常駐し、100キロ以上の重量級の選手を中心に調整にあたった。

2013年、井上康生・日本代表監督から「ジュニアの重量級を強化したい。協力してほしい」と頼まれ、以後、全日本柔道連盟ジュニア強化コーチを務めた。2016年リオデジャネイロ五輪後はシニアの指導も兼務した。ジュニアは中学から大学3年までと幅広い年代を指導し、教え方や選手とのコミュニケーションの取り方など、とても勉強になったという。

日本は2012年ロンドン五輪では金メダルゼロに終わり、その後、井上監督が就任した。生田准教授は「井上体制の下、ゼロから積み上げて立て直し、金5個は言葉では言い表せないほどの偉業」と振り返る。

また、日本の躍進の背景について、「旧態依然の精神論だけではない、例えば、各選手のウイークポイントだけに焦点をあてた部分稽古など、緻密さを重視した指導の成果だ。全日本柔道連盟の科学研究部の力も最大限に活用し、膨大な映像を分析した」と指摘する。

東京五輪の経験をいかに本学で生かすか。「合理的な練習方法を本学でも、より取り入れ、映像班の競技分析を参考にして、ゼミ生にも分析をさせたい」と語った。

生田秀和柔道部男子監督

東京パラ 本学勢躍動

宇津木、平泳ぎ6位入賞 × 山本、走り幅跳び4位

壮行会に参加した宇津木（左から4人目）、山本（5人目）両選手

東京パラリンピックには、教育学部1年の競泳女子・宇津木美都（うつぎみくに）選手、冬季も含めると5大会連続出場となる陸上・山本篤選手＝本学客員准教授＝の若手とベテランが出場した。

宇津木選手は学部生としては本学で初の出場。5月のジャパンパラ大会の100メートル平泳ぎ（SB8クラス）で世界ランキング10位に相当する1分30秒07をマークし、障害の国際クラス分け検査を経て代表入りした。

宇津木選手は中学から本格的に競泳に取り組み、中学2年で50メートル平泳ぎのアジア新記録を樹立した。しかし、高校でスランプに陥り、「もう泳ぐのは嫌だ」と思った時も。大学に入学し、浜上洋平監督らの指導で水の抵抗を減らすため最小限のストロークに変えて復調した。

一方の山本選手は日本のパラアスリートを代表するレジェンドだ。高校2年の時、事故で左足の大腿部を切断。本格的に陸上競技をするため、本学に入学し、2008年北京大会から東京大会を含めて4大会連続でパラリンピックに出場し、北京大会で走り幅跳び銀メダル、2016年リオデジャネイロ大会の走り幅跳びで銀、4×100メートルリレーで銅メダル。18年平昌冬季大会にスノーボード代表でも出場した。常にパラスポーツがより普及するために心を砕き、子どもがパラアスリートにあこがれるよう、走り幅跳びでの空中のかっこいい姿勢にもこだわってきた。

野田理事長（左から2人目）、原田学長（左端）に大会を報告した宇津木選手

2人は7月14日、大学での壮行会に参加した。宇津木選手は「すごくワクワクした気持ちで練習している。決勝進出を目指したい」、山本選手は「これだけ多数の大学関係者がオリンピック・パラリンピックに出場するのは初で、誇りに思う。今後、より多くのオリ・パラアスリートが学べる大体大であってほしい」と語った。

東京大会では、宇津木選手は8月26日、百メートル平泳ぎ（SB8）の予選で6位に入って決勝に進出。同日夜の決勝では1分28秒59で6位入賞を果たした。レース後は満面の笑顔でインタビューに答え、「目標だった決勝の舞台で泳ぐことができて光栄。自分が次の目標にしている2024年パリ大会でのメダル獲得につながるいいレースだった」と語った。9月1日の200メートル個人メドレー予選（SM9）は全体の13位で決勝に進めなかった。

山本選手は8月28日の走り幅跳び（T63）決勝で4位入賞した。5回目の跳躍でアジア新記録となる6メートル75の大ジャンプを決めていったんは3位に浮上。しかし、その後3選手が7メートルを超え、パラリンピックの魅力を凝縮したようなハイレベルの争いの末、4位となった。また、29日の陸上100メートル予選（T63）は1組5位で決勝には進めなかった。壮行会では「今39歳だが、年齢を重ねていっても衰えないアスリートを目指したい」と話しており、これからもパラスポーツの魅力を訴えていく。

内田（教育1年）が聖火点火

パラリンピック開会式で聖火台に点火する内田峻介さん（右）＝毎日新聞社提供

パラリンピック開会式の聖火リレーで聖火の最終点火者を務めたのは、教育学部1年の内田峻介さん。本学関係者のオリ・パラでの聖火点火はもちろん史上初。ごく少数の関係者以外には一切秘密で、とびきりのサプライズだった。

開会式のフィナーレとなる聖火の点火は、著名なパラリンピアン3選手から医師、看護師、義肢装具士の方3人にリレー。その後、内田さんが車いすテニスの上地結衣さん、パワーリフティングの森崎可林さんとともに聖火を受け継ぎ、聖火台を巡るスロープを上がって点火した。

また、内田さんの介助は、大阪体育大学卒業生で、大阪府立東大阪支援学校教員の堀部陽太郎さんが務めた。

内田さんはボッチャ日本代表「火ノ玉ジャパン」の強化選手で、2024年パリ大会の出場を目指している。最初に開会式への参加を打診された時は「まさか聖火リレーとは思わず、開会式でボッチャの対戦をするのかなあ」ぐらいにしか考えていなかったという。

開会式の模様について野田賢治理事長、原田宗彦学長に報告に訪れ、「素晴らしい機会を与えていただき光栄だった。聖火ランナーの役割を務めたからには、2024年のパリ・パラリンピックやその先を目指し、感謝の気持ちを忘れずに日々、練習を頑張っていく」と語った。

曽根准教授がボッチャコーチ

教育学部の曽根裕二准教授（アダプテッド・スポーツ）が東京大会でボッチャ日本代表のコーチを務めた。

BC4クラス（非脳原性疾患）クラスを担当し、個人戦とペア戦に臨んだ。

曽根准教授は2015年からボッチャ日本代表のコーチを務め、2018年の世界選手権、アジアパラゲームズなどに参加。東京大会が初のパラリンピックとなった。

本学でアダプテッド・スポーツ部の部長を務め、内田峻介選手らを指導している。

ボッチャ日本代表は全クラスを通じて金銀銅メダル各1個を獲得。曽根准教授は「出場全選手が入賞を果たし、いい結果を残せた。勝負に行く場面でしっかり攻めの姿勢を貫けたこと、選手・スタッフのチームワークの良さがその要因だと思う」と話し、「ボッチャの1試合すべてが地上波で中継されたのは初めてではないか。東京大会がパラスポーツの発展のきっかけになってほしい」と期待した。

曽根裕二准教授

多くの同窓教員とともに
生徒の成長を感じたい

西本祥子（にしもと・さちこ）
1976年10月30日生まれ、44歳。神戸市出身。2000年3月、大阪体育大学体育学部卒、32期。2004年、神戸市立長田中学校に保健体育科教諭として赴任し、2009年から神戸市立須磨翔風高校に勤務。テニス部顧問を務め、2年間の神戸市教育委員会指導主事を経て2021年4月から同校教頭。

神戸市立須磨翔風高等学校　教頭
西本 祥子さん

大学時代はテニスに打ち込み、中学校の先生を経て、高校で約10年間、保健体育科教諭、テニス部の顧問、担任、生徒指導担当として生徒に向き合った。2年間の神戸市教育委員会勤務を経て、今年4月から教頭として一転、学校の管理業務に奮闘する。「教員とは自分でも『すごい仕事』だと思います。生徒とは家族よりも長い時間を過ごし、すぐ近くにいて共に考え、伝えていく。やりがいのある仕事です」。将来、教員を志す後輩たちにエールを送った。

――大阪体育大学に入学した理由は。

父母が教員で、私も教員を目指して他の大学を受験し、一浪しました。はじめは保健体育以外の教員を考えたのですが、高校時代に打ち込んでいたテニスを早く大学でも続けたくて、保健体育科の教員になれる大体大も選択肢に。パンフレットで見た、テニスコートの設備にもほれ込んで決めました。

――大学での4年間は。

楽しくて仕方なかったです。大体大にはさまざまな競技で上位を目指す仲間が全国から集まり、スポーツに関わる仲間と語りあえたことが大きい。テニスも追求し、インカレのダブルスでベスト16、インドアのインカレでも確かベスト8に進みました。大学で出会った友人との交流は今も続いています。

――大学での授業は教員になる夢の実現に役立ちましたか。

教員採用試験を受けた時に「あ、これ大学の授業で聞いたな」ということがたくさんありました。保健体育科教育法などまさに、そう。ゼミも保健体育の先生を目指す内容で、ゼミの先生に丁寧に指導していただきました。

――卒業後は。

最初の4年ほどは神戸市の高校で非常勤講師、講師を務め、2004年に神戸市の教員採用試験に合格して市立長田中学校に赴任しました。当時、長田中にはテニス部がなく、最初はバスケットボール部の顧問でした。

2009年、神戸西高校と須磨高校が再編、統合されて開校した須磨翔風高校に赴任し、約10年間勤務しました。生徒指導担当のころは、テニス部の朝練の後、正門の前に立って、朝一番に登校する生徒の顔を見ていました。

――テニス部の指導はご苦労も多いと思います。

私は、顧問は教育者であり、コーチではないと思っています。日常生活の中にテニスがあればいい。例えば「明日、朝練があるから今日は早く寝よう」と考えるのも生徒の気づき。毎日朝練で頑張ることで遅刻をしなくなるなど、日常生活に結びつける指導を心がけていました。また、3年になると部活動を引退して受験に備えます。テニスを

頑張っている生徒ほど引退を嫌がりますが、「テニスが受験勉強になるだけだよ。テニスにつぎこんできた情熱を進路実現につなげよう」と指導しています。苦労は、部員数が多い頃、2面のテニスコートで2時間と限られた活動時間の中、部員たちに「今日も練習した、明日も頑張ろう」という気持ちにさせるような活動にできるよう、練習メニューはもちろん声のかけ方に工夫が必要だったことでしょうか。

――2年間の神戸市教育委員会児童生徒課指導主事を経て、今年4月、教頭に。教頭先生の1日は。

朝、学校を開けるのは教頭の仕事です。職員室の窓を開けて換気して電気ポットでお湯を沸かし、校舎の扉を開けて、自分のパソコンを開いてメールを確認して。保護者から欠席の電話がかかってきます。職員の朝の打ち合わせ、続いて管理職の打ち合わせ。席に戻って神戸市教育委員会など外部からの連絡を確認し、先生や業者からの報告を受け、合間に委員会に提出する書類作り。電話がたくさん鳴ります。

――生徒と常に接していた教員時代とはかなり違いますか。

生徒と直接接する機会は減りましたが、教頭は先生方と接する仕事です。生徒に一番近い先生との打ち合わせの先には、生徒の姿があります。先生の困っていることや諸課題を解決することは生徒のためになると思っています。

――これまで、教員としての一番の思い出は。

卒業生が学校に訪ねてきたり、町やお店で声をかけたりしてくれることですね。ある日、テニスコートで練習していたら、野球部だった生徒が来て、「先生、教員採用試験合格しました」と。テニス部でも担任のクラスでもなかったのですが、あいさつに来てくれました。去年、神戸市教委で勤務していた時は、教え子が来て、「先生、結婚します」。子どもを抱いた教え子も来てくれました。また、教え子から自分の子どもの発達について相談を受けることもあります。教員として年を重ねるごとに、出会いやつながりが広がっていると感じます。

――大体大出身の教員は周囲で多いですか。

めちゃくちゃ多いです。本校にも教諭、講師合わせて5名在籍しています。また、神戸市立高校は8校ありますが、保健体育科教諭は大体大卒が一番多いそうです。今はコロナ禍で難しいのですが、上の方が「大体大の会」を開いていて、交流しています。

近くに大体大出身の教員がいることは心強く感じます。講師の時から仲の良い同窓の教員がいて、コロナ禍の前はよく集まって話をしました。大学で同じころに同じ気持ちで学び、同じ思いでそれぞれの学校で頑張っているから話が通じやすい。ともに汗を流した仲間はいい相談相手になっています。

――大体大で教員を目指す学生に、改めて教員の魅力を教えてください。

教員は、その生徒の一生に関わる仕事です。覚悟や自覚がいりますが、生徒の成長を身近で感じられるところが魅力で、やりがいがあります。教員は成績、評価をつけますが、真剣に生徒に向き合わないと、数字次第でその子の人生を変えてしまうかもしれない。となると、日々しっかり生徒を見ておきたいし、すると気づくことが多いです。

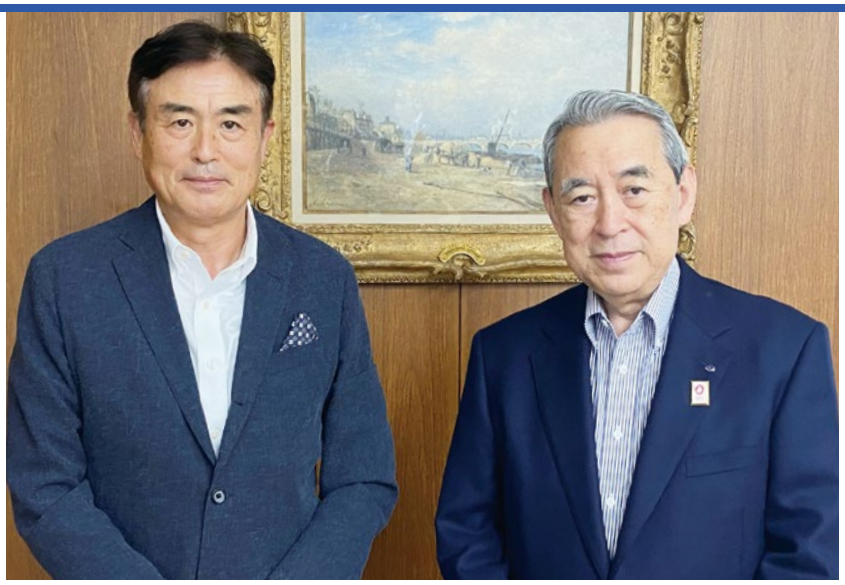
――最後に学生へメッセージを。

時代が変わったと言われますが、変えてはいけないものがあると思います。AIやリモート、画面越しの会話が続いたとしても、動いているのは人と人です。相手に自分の思いを伝え、相手の気持ちをくみ取ることが大切で、その第一歩が、あいさつ、言葉づかいだと思います。その意識は持ち続けてほしい。

管理職会議での打ち合わせ

原田学長、奔る

原田宗彦学長が4月の就任以来、精力的に「トップセールス」を展開している。経済団体や企業のトップに会い、地元自治体の首長らと会談を重ね、関西一円の高校28校（9月末現在）を訪問して本学の魅力を熱く語りかけている。また、専門のスポーツマネジメントやオリンピックのあり方などについて外国も含めたメディアからの取材も相次いでいる。



関経連の松本正義会長と

財界トップ、首長と会談

原田学長は6月29日、関西財界トップの関西経済連合会会長、松本正義・住友電気工業取締役会長を同社本社に訪ねた。関経連は2018年に「関西スポーツ振興ビジョン―スポーツで輝く関西―」を策定するなどスポーツを通じた地域振興や経済活性化を推し進め、松本会長は2025年の大阪・関西万博や来年のワールドマスターズゲームズの旗振り役だ。松本会長は「関経連はトップアスリートを育てることも目標にしている。育成には強力な支援が必要で、経済団体が果たす役割は大きい」と語り、原田学長は「本学では、健康や衛生がより重視されるニューノーマルな時代を見据えて、スポーツの力で産業や幸福な社会づくりに貢献できる人材を育てたい」と新学長としての抱負を語った。

経済界では、関西国際空港を運営する関西エアポートの山谷佳之代表取締役社長と、関空に近い大学の利点を生かしたスポーツツーリズムの可能性などについて意見を交換した。阪神タイガースのオーナーも務める阪神電気鉄道の藤原崇起代表取締役会長との懇談では、本学の研究の知見がプロスポーツで大いに生かされていることや、本学の卒業生も多数参加する女子チーム「阪神タイガースWomen」の創部も話題に上った。

地元自治体の首長とも活発に意見を交わしている。7月19日には、「スポーツと地域活性化」などをテーマに、泉大津市の南出賢一市長、竹内悟教育長と会談した。泉大津市は「アビリティ・タウン」構想の下、多様な施設の整備を進めている。一方、本学はスポーツ庁の委託事業「2020年度大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成事業」などを通して、泉州地域でスポーツと健康のまちづくりを推進し、大学スポーツの振興による地域活性化と、その事業モデルの検証と構築に取り組んでいる。

原田学長は整備中の施設を視察した後、冨山浩三教授の司会で会談に臨み、「可能性の広がる施設がいくつもあるが、施設間をどうつなげて回遊性を持たせるかが課題だ」「スケートボーダーが集まる市内の広場を活用し、公立中学3校が合同でアーバンスポーツクラブを作ってはどうか」などと専門家の立場から助言した。

また、本学の学生が多数下宿している泉佐野市の千代松大耕市長との懇談では、大阪・泉州地域のさらなる魅力アップに存在感を発揮していくことを表明した。大学が立地する熊取町の藤原敏司町長とも活発に意見を交わした。

5月には、親交のある劇作家の平田オリザ氏が学長を務め、今春、兵庫県豊岡市で開学した芸術文化観光専門職大学を訪問した。同大学は芸術文化と観光分野の双方の視点を生かした教育

南出賢一泉大津市長（右から2人目）らと会談

が特徴で、スポーツを通じた地域貢献に取り組む本学との共通点も多く、芸術文化とスポーツのそれぞれの分野を通じた観光や地域貢献について意見を交換した。原田学長は「大阪体育大学が改革を進める中で、スポーツと観光についても新たな展開ができるカリキュラムを考えていきたい」と語り、同大学に近くスポーツ合宿のメッカでもある神鍋高原での両大学の学生の交流などについて意見が交わされた。

親交のある平田オリザ氏（左から４人目）と

高校訪問28校

大阪桐蔭高校を訪問

原田学長は関西の高校を積極的に訪問している。より優秀な学生の確保と、高校の教育現場が大学に求めるニーズを直接、把握することが目的で、大阪府、兵庫県を中心に京都府、奈良県など1日に3～4校を訪れ、各校の校長や教頭、進路指導の先生らと懇談した。

学長は各校で最初に、本学がアフターコロナの時代も見据え、「幸福な社会づくり」に貢献する大学を目指していることを説明。キャンパスに6つの専用体育館と多数の競技場が集中していることや、医師常駐の診療所やATルーム、学生相談室など学生の心身をケアする施設が整っていることなどを説明した。

各校の校長らがスポーツ施設やケガのサポート体制などの充実ぶりに驚く場面が目立ち、カリキュラムや入試制度などについて多くの質問が寄せられ、活発に意見を交わした。

また、高校を訪問して改めて実感したのは本学出身教員の多さ。訪問した高校のほとんどで卒業生が勤務していたほか、卒業生6名が勤務している高校も何校かあった。

国内外メディアから取材殺到

原田学長に新聞、テレビなどメディアから取材が相次いでいる。

5月4日、毎日新聞で新学長としての経営方針が紹介され、1ページすべてが本学の記事で埋まった。

原田学長は日本を代表する五輪の研究者で、6月3日、全国の主要新聞、テレビ、通信社など約190社が加盟する日本記者クラブから招かれ、オンラインで記者会見。当時、新型コロナウイルスの感染拡大を巡って開催の可否が議論になる中、「五輪は人類が発明した最強の平和維持装置である」などとして無観客開催を訴えた。

五輪が近づくと連日のように取材が申し込まれ、予算、五輪会場での広告、SNSによる選手の情報発信、医療体制など多方面のテーマについてテレビや新聞でコメント。閉幕にあたっては、日本テレビ「ZIP！」で10歳代の若い日本代表の活躍をたたえた。

また、外国メディアからの取材も多く、米ニューヨーク・タイムズ紙でゴルフ・マスターズでの松山英樹選手の優勝についてコメントし、フランスAFP通信では五輪での若者世代の関心の乏しさを検証した記事で見解を述べた。

15　毎日新聞　2021年(令和3年)5月4日(火)

ハンドボール部女子

出身者に上原浩治さんら

コロナのニューノーマル時代　体育大経営とは

大阪体育大新学長

原田宗彦氏に聞く

地域の健康・幸福追求

「タイダイ」資源でカリキュラム改革

スポーツ庁に野球部OBの松平一彦さん

大学は一つのチーム

毎日新聞紙面

グッドコーチ養成セミナー開講

中高で部活を指導する学生育成

学生と教員とのミーティング

大阪体育大学は、中学・高校などで部活動指導員・外部指導者などとして運動部活動の指導にあたる学生を育成する「グッドコーチ養成セミナー2021」を6月21日に開講した。

同日は本学学生約50人を対象にライブ配信やオンデマンド配信でガイダンスを実施。今年度は来年1月までに14回の講義を予定している。

部活動は教員の長時間労働是正、指導者による体罰防止などの観点から改革が急がれており、本学は、課題解消に向けて2019～20年にスポーツ庁から「運動部活動改革プラン」事業を受託。すでに多数の学生が大阪府内の中学・高校などで部活動指導に携わっている。さらに学生から希望者を募り、部活動指導員・外部指導者・学生ボランティアとして運動部活動の指導者を養成するプログラムを開発し、システム化した。

セミナーのプログラムは、①関係授業科目の履修②文部科学省「部活動指導員に対する研修内容（例）」の「学校設置者等において実施する研修」13科目の模擬講義や、本学独自の8科目の講義・演習（理論編）③動画コンテンツによる「競技別の指導者研修」（技術編）から構成されている。

プログラムは本学学生を対象にしたセミナーのほか、将来的には教育委員会や学校現場と連携を図り、現役の教員に対するセミナーを実施するほか、部活動指導員を目指す一般の社会人の方にも提供することを計画している。

2022年度に動画付き専用テキストを発行する予定。

オンラインでガイダンスを実施する
中尾豊喜教授（右）ら

毎年度末、一定基準に達した学生には科目の履修状況や研修履歴を裏面に記録した「修了証」が発行され、教育委員会や学校、地域団体に学生を紹介するときの基礎条件となる。

スポーツ庁委託事業「武道ツーリズム」を受託

海外のアニメファン含め地方誘客はかる

大阪体育大学がスポーツ庁の委託事業「武道ツーリズム」を受託した。

スポーツ庁はポストコロナに向けて、スポーツを通じて国内旅行の需要を高め、将来的なインバウンドの地方への誘客を目指す「スポーツによるグローバルコンテンツ創出事業」を進めている。「武道ツーリズム」はその一部門。本学が応募した『大学×競技団体×自治体』で目指す地域文化・観光資源を活かした体験学習型グローバルコンテンツ創出事業」が採択された。

本学が実施するスポーツ庁委託事業は今回で7件目となる。

武道ツーリズムは、日本発祥の武道と歴史・文化を組み合わせ、日本でしか体験できないツーリズムコンテンツを創出し、国内外の旅行者の更なる地方誘客を図る取り組みだ。

本学が有する武道コンテンツを主軸に自治体、企業などと連携し、地域の文化・観光資源を活かして体験学習型のグローバルコンテンツの創出に取り組む。

将来的には、海外からのツアー参加者が本学キャンパスで武道の精神などの講義を受け、実技を体験するとともに、武道ゆかりの地や本学周辺の史跡などを巡る。

また、ターゲット層を有段者などの「コア層」、初心者・愛好者などの「中間層」、アニメなどを通じて武将や侍、忍者などに関心がある「ライト層」に分け、2022～23年度はコア層・中間層のテスト事業、24～25年度はライト層を対象にした事業を目指す。

インカレ２部が全国Ｖ

硬式野球部女子 初 なぎなた４連覇

インカレで２部が全国Ｖを果たした。

硬式野球部女子は第11回全国大学選手権大会の決勝で平成国際大学を４－３で降し、２００９年の創部以来13年目で初優勝。プロチームの京都フローラで３年間プレーし、今年、入学した白石美優選手（体育１年）が先制の二塁打に好守などでチームを引っ張り、左川楓投手（同２年）が粘り強く完投した。

なぎなた部は第60回全日本学生選手権大会の演技の部で阿部真優選手（同２年）・井口晴奈選手（同４年）ペアが、決勝で鹿屋体育大学ペアを４－１で圧倒し、４連覇を達成。個人戦では、志藤すず穂選手（体育４年）が決勝で延長戦を制して優勝。また、５人で争われる団体戦でも準優勝し、演技、個人、団体の三冠まであと一歩に迫った。

金子名誉教授が短歌集刊行

全国大会入選１００首を記念

元大阪体育大学副学長の金子公宥（まさひろ）名誉教授が、趣味の短歌で全国大会への入選が１００首を突破したことを記念し、このほど短歌集「盆栽」を刊行した。

金子名誉教授はスポーツ生理学・バイオメカニクスの分野の第一人者で、大学院体育学（現スポーツ科学）研究科長などを務め、２００３年に退職。昨年秋、瑞宝中綬章を受章した。

短歌は、本学の教員で１年先輩の林信恵（みちえ）名誉教授から勧められたことがきっかけで５年ほど前から本格的に取り組んだ。全国大会への投稿を続け、特選・秀作などを含む入選歌が１００首を突破した。

金子名誉教授は短歌の魅力について、「自分のことなど恥ずかしくて言いにくいことでも、短歌にすれば言える不思議さがある。うれしい、悲しいなどの形容詞を一切書かずに事実で心情を伝える点も良い」と語る。

短歌集「盆栽」はＡ４判48ページ。これまでに入選した特選３首、秀作７首、佳作11首、入選80首の計１０１首が収められている。企画・編集はいずれも本学卒業生（昭和48年卒）の藤田英和氏が担当し、美しい装丁の歌集に仕上がった。

◇

「盆栽」は残部があります。ご希望の方はメールで金子名誉教授にご連絡下さい。mkaneko@rinku.zaq.ne.jp

JR車内にポスター

関西の主要路線で掲示

大阪体育大学の熊取キャンパスを空撮したポスターが７月１日から31日まで、ＪＲ西日本の環状線、京都線、神戸線、阪和線など主要路線を走るすべての快速電車に掲示された。

掲示されたのは、ほぼ全車両の連結ドアの横。

ポスターは熊取キャンパスを今年、ドローンで空撮した写真がメーン。専用体育館６棟や、２００７年大阪世界陸上で米国代表が合宿した陸上競技場、西日本の大学初の全面人工芝サッカー場、国際ラグビーボード初公認の人工芝ラグビー場、全米テニスと同じサーフェスのテニスコートなどがコンパクトに集中する本学の魅力を強調するデザインだ。通勤・通学時の高校生や保護者の方に、本学の全国でもトップ級のスポーツ施設をアピールした。

ようこそ大体大へ

2年ぶりに入学式

令和３年度大阪体育大学大学院・
大阪体育大学入学式が４月２日、
熊取キャンパス内のＬ号館で行われた。

入学式の模様はケーブルテレビ「J：COM」でも放送されました。
（ユーチューブで、「ジモト応援！　４月５日」で検索できます）

２年ぶりに実施された入学式

入学生は、学部生が体育学部５４１名、教育学部１４２名の計６８３名、大学院生は博士後期課程２名、前期課程20名の計22名。

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかったが、今年は感染防止策を徹底し、式典を2部制にして参加人数を分散し、開催した。

また、会場はこれまでのスターゲイトホテル関西エアポートからキャンパス内に変更された。

式は、午前に大学院スポーツ科学研究科、体育学部健康・スポーツマネジメント学科、教育学部教育学科、午後に体育学部スポーツ教育学科の順で行われた。

会場への入場は感染症対策のため学生と教職員に限り、保護者の皆様はライブ配信を通じて式を見守るかたちとなった。

式では、原田宗彦学長が入学生への入学を許可した後、式辞で「コロナ禍でニューノーマルへの移行が迫られている。心身ともに健康でいたいと望む人が増え、それを支える人材を輩出する大阪体育大学は、より社会に求められる存在となる。教育面と研究面で社会を健康にする新しい大学を共に築いていきましょう」と語りかけた。

入学生を代表して大学院から八木原綾音さん、体育学部スポーツ教育学科から近藤克海さん、体育学部健康・スポーツマネジメント学科から川端慎太郎さん、教育学部教育学科から長谷川諒太さんが宣誓を務めた。

式辞を述べる原田宗彦学長

新入生を迎えたマスコットの「ボーシャー」。中央棟前広場の階段は「入学おめでとう」などとデザインされた

子どもの体力向上推進プロジェクト
体を動かすって楽しいよ
泉大津市から委託・社会貢献センター

本学社会貢献センターが、6年目となる「泉大津市子どもの体力向上推進プロジェクト～体を動かすって楽しいよ～」を今年もスタートさせた。第1回は6月9日、泉大津市立浜小学校で行われ、「ボールを遠くへ投げる」をテーマに実施された。

このプロジェクトは、泉大津市教育委員会からの委託事業。遊びをとおした運動プログラムにより、児童が楽しく運動・スポーツを経験することで、

教育後援会役員会を開催

保護者代表らが予算案など承認

令和3年度の大阪体育大学教育後援会役員会が7月24日、本学のL号館で開催され、学生の保護者代表25人と法人、大学の幹部が出席した。

対面での開催は2年ぶり。冒頭、齊藤文代会長が「昨日開幕した東京オリンピックとパラリンピックに大阪体育大学から多数の選手、コーチ（計12人）が参加すると聞き、喜ばしい限り」などとあいさつした。野田賢治理事長、原田宗彦学長のあいさつに続いて議事に移り、長崎正巳事務局長が令和2年度の事業、決算を報告した。

その後、令和3年度の役員が選出され、佐川弘美副会長が新会長に就任。

2年ぶりに対面で開催された教育後援会役員会

新会長に選出された佐川弘美さん

令和3年度の予算案が審議され、年約3300万円の会費収入などから、学生のクラブ活動、朝食、クラブ活動中などにけがをした学生の治療、就職振興活動などに関する学生助成費を支出し、特別経常費として創立100周年記念募金に1000万円を拠出することなどを盛り込んだ予算が承認された。

◇新役員のうち会長、副会長、会計監査は次の通り◇

▽会長　佐川弘美

▽副会長　大田政信、大谷哲也

▽会計監査　宇野修、菅谷暢之

（敬称略）

運動・スポーツを好きになってもらい、日常的に運動やスポーツに親しむ習慣を身につけてもらうことを目的としている。毎年、市内の対象校を1校決めて、週に1回、数ヵ月間実施する。

約30人の児童を4班に分けて、スタッフが児童を引率し、体温を測ったり、健康状態を確認したり、手指消毒をして感染予防対策を取った。はじめに、横井光治・硬式野球部女子監督があいさつし、準備運動の後、軽く体を動かすため、児童はスキップ・ベアウォーク・サーキットトレーニングに挑戦した。

少し休憩を取った後、児童らは横井監督の指導で、今回のテーマである「ボールを遠くへ投げる」ためのトレーニングに取り組んだ。2種類のトレーニングで、まず1つ目は、割りばしを水平に持ち、手首をつかって振る。2つ目は、紙コップに豆を入れ、手首をひねりながら、豆を落とさず下から頭の上まで上げた。最後に、体育館の端から端までボールを遠くへ投げる練習に取り組んだ。

終了後、児童たちは笑顔で「楽しかった」と話していた。

このプロジェクトは来年2月まで約20回、実施される予定。

大阪体育大学 令和2年度 資金収支計算書

収入の部　（単位：円）

科目	金額
学生生徒等納付金収入	3,553,926,671
手数料収入	44,546,300
寄付金収入	47,843,366
補助金収入	442,456,344
国庫補助金収入	440,927,500
府県補助金収入	1,528,844
資産売却収入	65,610
付随事業・収益事業収入	20,963,251
受取利息・配当金収入	20,356
雑収入	109,076,189
計	4,218,898,087

支出の部　（単位：円）

科目	金額
人件費支出	1,980,617,316
教育研究経費支出	1,004,866,195
管理経費支出	176,072,680
施設関係支出	159,820,244
設備関係支出	260,548,651
計	3,581,925,086

大阪体育大学 令和3年度 資金収支予算書

収入の部　（単位：円）

科目	金額
学生生徒等納付金収入	3,507,890,000
手数料収入	44,090,000
寄付金収入	17,100,000
補助金収入	441,970,000
国庫補助金収入	441,790,000
府県補助金収入	180,000
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	16,400,000
受取利息・配当金収入	10,000
雑収入	116,180,000
計	4,143,640,000

支出の部　（単位：円）

科目	金額
人件費支出	2,021,900,000
教育研究経費支出	1,109,700,000
管理経費支出	190,330,000
施設関係支出	84,500,000
設備関係支出	323,030,000
計	3,729,460,000

＼オープンキャンパスを開催／

学生・教職員と高校生・保護者がリアルに交流

オープンキャンパスが８月７、８、22日に熊取キャンパスで開催された。様々な感染防止対策を取ったうえで混雑を避けるために午前、午後の２部に分けて実施し、数多くの高校生や保護者の方にご参加いただいた。

原田学長のウェルカム・スピーチを聴く参加者の方々

学長スピーチで「パワー・オブ・スポーツ」を強調

メーン会場のＬ２０１、Ｌ３０１教室では大学説明が行われた。

原田宗彦学長がウェルカム・スピーチに臨み、「世界中の人がオリンピックを観戦するように、スポーツには力、『パワー・オブ・スポーツ』があります。スポーツへの関わり方は、選手、トレーナー、スポーツビジネス、小学校の先生になるなど多様ですが、本学では様々なニーズに答え、スポーツを使って社会を動かすカリキュラムが用意されています」などと語りかけた。

続いて体育学部の神﨑浩、教育学部の植木章三両学部長らが学部の詳細を説明し、就職状況説明、入試概要の解説などもあった。

講演「大体大はなぜ就職に強いのか」

その後、多彩なイベントがスタート。Ｄ号館では、保護者向けイベントとして、「大体大生はなぜ就職に強いのか」と題し、大学ジャーナリストの石渡嶺司氏が講演。「体育会系は体力のほか、練習を粘り強く継続してきたこと、競技で学んだ戦略・戦術などの観点で企業から高評価を得ており、この評価はレギュラーでも控え選手でも変わりません」「中でも大体大は１９６５年に関西初の体育系大学として創設された伝統があり、スポーツの諸分野での知見が蓄積されている分、企業が信頼して求人を出しています」と語った。

Ｃ号館では、２階と３階の各教室で体験授業や相談コーナーを一斉に開催。体験授業は各学科・コースごとに教員が専門分野を分かりやすく解説。「スポーツ科学でアスリートの潜在能力を引き出す！」「算数の内容を仲間分けしよう」などの授業から、参加者は興味のある教室を訪れて、受講していた。

キャンパスツアーも盛況

屋外、屋内の２コースで巡るキャンパスツアーも盛況。ブルーのスタッフシャツを着た学生がガイドを務め、高校生や保護者の方と一緒に学内を巡り、各施設の特徴などを解説し、様々な質問に答えた。下宿生活やキャンパスライフのことを尋ねられたり、将来の夢やなぜ本学に入学したのかを答えるうちにすっかり打ち解けて、保護者と学生がじっくり１対１で話し込む場面もあった。

学友会新役員

令和３年度の学生代表者総会が５月31日にオンラインで開催され、学友会の新役員が以下の通り決まった。

会長　福島隼人（教育３年）▽副会長　前田翔希（教育３年）、成願淳哉（教育２年）＝ライフセービング部▽総務委員　北川亮介（体育２年）▽会計委員　大上あずさ（体育３年）＝フィールドホッケー部、奥村龍馬（教育２年）＝硬式野球部▽企画広報委員　若杉太志（体育３年）＝アダプテッド・スポーツ部、松下凌也（教育２年）＝硬式野球部

〈雨山祭実行委員〉

委員長　田澤良多（体育２年）▽副委員長　眞丸葵（教育２年）＝フィールドホッケー部、多田羅あすか（体育２年）

窓

◆◇４月から「ＯＵＨＳジャーナル」と学内新聞「ＯＵＨＳスポーツ」の編集長を務めています。スポーツ畑の新聞記者あがりで、２年前の12月から本学で勤務。昨年４月に新設された中央棟６階、スポーツ局横の広報室にいます。講義も前任の和泉かよ子さんから引き継ぎ、後期にスポーツメディア論を担当しています。どうぞよろしくお願いします。◆◇大学に来て、他にはない本学だからこその魅力・長所は何か、多くの人に取材しました。「これだけの専用スポーツ施設が１か所に集中しているのは、うちぐらい」「教員やキャリア支援部などのスタッフと学生が、ここまで密接で面倒見がいいのは、ちょっとない」。また、卒業生に取材するたび、半端ない「大体大愛」を熱く語られました。現役の記者時代も、創設直後のスポーツ局の取材に来て「アグレッシブな大学だな」というイメージを外から持ちましたが、中に入って魅力はより強く感じます◆◇この「ジャーナル」でも大体大の魅力を発信していきます。今号では、東京オリンピック・パラリンピックで過去最多12名の本学関係者が出場した快挙と、原田宗彦新学長が精力的に展開するトップセールスなど対外活動をワイドに紹介しました。皆様からの情報提供をお待ちしています。

【大坪康巳】

読書の性別

コラム ボーシャー

名誉教授　和田隆夫

読書にはひとそれぞれの癖があり、習慣がある。かつては性別さえあった。

読書の性別とは読む本や雑誌が男女で違うということだ。ぼくは中学に入るまでこのことを知らなかった。まったく鈍感な話だ。

原因の一つは、本好きの母である。彼女は、なにを、いつ、どこで読むのか、すべて自由にしてくれた。もう一つは二歳下の妹である。身近に少女向けの本や雑誌があった。『少女』『りぼん』『週刊少女フレンド』を〈おもしろい・つまらない〉基準で読んでいた。牧美也子の「マキの口笛」や赤塚不二夫の「ひみつのアッコちゃん」に夢中だった。もちろん『週刊少女フレンド』に連載されていた楳図かずおの「へび少女」に悲鳴をあげていた。

中一のあるとき担任が「みんなの愛読書はなにかな」と訊ねた。

『赤毛のアン』が即座にうかんだ。当時、村岡花子のアンシリーズに夢中だった。

ぼくの順番が回ってきた。勇んで、少し高音で

「赤毛のアンです」

一瞬の静寂があって、笑い声がおこった。

何が起こったのかわからなかった。ぼくには読書を性別で二分する習慣はなかったし、クラスの空気は読めなかった。少年期にふさわしい痛い経験だった。それでもアン推しは変わらず、後年、日本で最初に出版された村岡花子訳の『赤毛のアン』（三笠書房）の第16版（1955年）を入手したとき、念願の初版（1953年）ではなかったがうれしかった。

この古本にはサプライズがあった。

裏表紙に「仁木書店にて　宮内和子　昭30.5.11」と青インクで美しく手書きされていたのだ。ぼくはこの本のページを繰ると、いつでも時空を越えて、彼女とアンの噂話をしているような切なく甘い気分になる。

読書の性別を知った後でも、70年代に大学生だったぼくは「アリエスの乙女たち」の里中満智子や「ポーの一族」の萩尾望都に夢中だった。

事件の後、「男の本」ってなんだ。少年は考え込んでしまった。

その年、ぼくは美術準備室の掃除当番だった。同じ当番にDがいた。喧嘩はしなかったが特別仲良しでもなかった。彼は、イァン・フレミングの007シリーズを理科実験室で授業するときなぜかいつも読んでいた。ショーン・コネリーの「007ゴールドフィンガー」が封切られる前後のことである。

ぼくは「これこそ男の本だ」と思い込み、さっそく『女王陛下の007号』（ハヤカワ・ポケット・ミステリ）を愛読書にするべく読みだした。装幀や判型はとても都会的で格好良かったが、活字は小さいし、言葉はむつかしい、それにエッチだった。中学生のぼくが初めて出会った男の、それも大人の本だったが、愛読書とは言わないことにした。

夏になるときまって読む「男の本」がある。

H.R.ハガード『ソロモン王の洞窟』（創元推理文庫）である。

大学院生の頃、カバーのイラストにひかれて、読みだし、はまってしまった。『洞窟の女王』、『二人の女王』、『女王の復活』と続く。

4作とも『風と共に去りぬ』（新潮文庫）の大久保康雄が翻訳している。さすがの訳である。くわえて、山本耀也がおどろおどろしいのにとてもチャーミングなイラストを提供している。

当時の京都の下宿には扇風機も冷蔵庫もなかった。砂漠の洞窟かと思える暑さで煮立っており、ハガードの小説そのものだった。訪問者は暑さを避けて深夜に来る。

その部屋で『ソロモン王の洞窟』を読み、「つづきを！」となったが、「これは危険だ！」「論文を書く時間があぶない」と思い、我慢した。この夏が終わり、紅葉で着飾った街が、やがて落葉でシックな佇まいをみせる。すぐに比叡山は初冠雪し、上賀茂神社のまわりでは、すぐきの天秤漬けが始まる頃になって、ようやく洞窟の女王アッシャの誘惑から逃れられた。でも夏がくると無性に会いたくなる。これを繰り返している。習慣になった夏の読書だ。

ハガードの素晴らしいイマジネーションの世界については、中学の時の痛い経験から、大学院の友人や職場の同僚には話さなかった。

『ソロモン王の洞窟』の解説で、大久保康雄は、ヘンリー・ミラーがハガードを高く評価していると指摘していた。さっそく彼の『わが読書』（ヘンリー・ミラー全集11）を読んだ。

ヘンリー・ミラーはこう書いている。

「彼（ハガード）こそはぼくの魂を捕らえた作家の一人」（括弧は筆者）であり、『ソロモン王の洞窟』を「思い浮かべるたびに、ぼくは心のときめきを押さえきれない」、洞窟の女王アッシャについては「ふたたび地上に戻るまでは死ぬることを拒む失われた魂、この女性こそは、不滅の美に呪われている不朽の恋人たちの銀河系のなかでも太陽にも比すべき位置を占めている。」

まったく同感だ。ヘンリー・ミラーと酒を飲みたくなった。

読書の癖や習慣はまさにその人の人生そのものに由来する。だからこそ自分や他者の読書の癖や習慣を受け入れることは、自分や他者の承認につながり、その過程でぼくたちは自分を愛することができ、そして他者に愛を向けることができる。そうだからこそ読書は自由であるべきだ。

極める力。

人を学び、育て、支える。

大阪体育大学

【大学院】
●スポーツ科学研究科
　博士（前期・後期）課程

【体育学部】
●スポーツ教育学科
●健康・スポーツマネジメント学科

【教育学部】
●教育学科

大学事務局
庶務部、教学部、入試部、広報室
キャリア支援部、大学院事務室

大学附置施設等
図書館、スポーツ局、社会貢献センター
情報処理センター
スポーツ科学センター
国際交流センター、学習支援室

https://www.ouhs.jp/

OUHSジャーナル　2021年（令和3年）10月8日（金）
発行所：**大阪体育大学**　広報室　発行責任者 大坪康巳　協力：教育後援会・学友会
大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1　電話（072）453-7021　FAX（072）453-8818